

## 部活動指導員のより有効な活用に向けて

- ・顧問の精神的・時間的な負担軽減のため、部活動指導員の活用は重要である。
- ・どのような部経営をするのかについて、学校と部活動指導員の連携は欠かせない。
- ・どの部活で指導員を導入するか、顧問の状況だけでなく、学校運営全体を見据えた検討が必要である。
- ・多くの部活動で土日の指導や試合を部活動指導員が担うようにするべきである。
- ・運動部活動の地域スポーツへの移行が求められている中、懸案となることが多いが、全ての部活動を指導員とすることも一つの案になるのではないか。

②定時退校日・会議のペーパーレス化

# 定時退校日

毎週水曜日は部活動・会議なし  
定時退校を呼びかけ



# 会議のペーパーレス化

職員会議の資料は事前にフォルダに入れ  
ておく。  
会議で提案者は読み上げない  
→30分程度で終了

The desktop shows three windows:

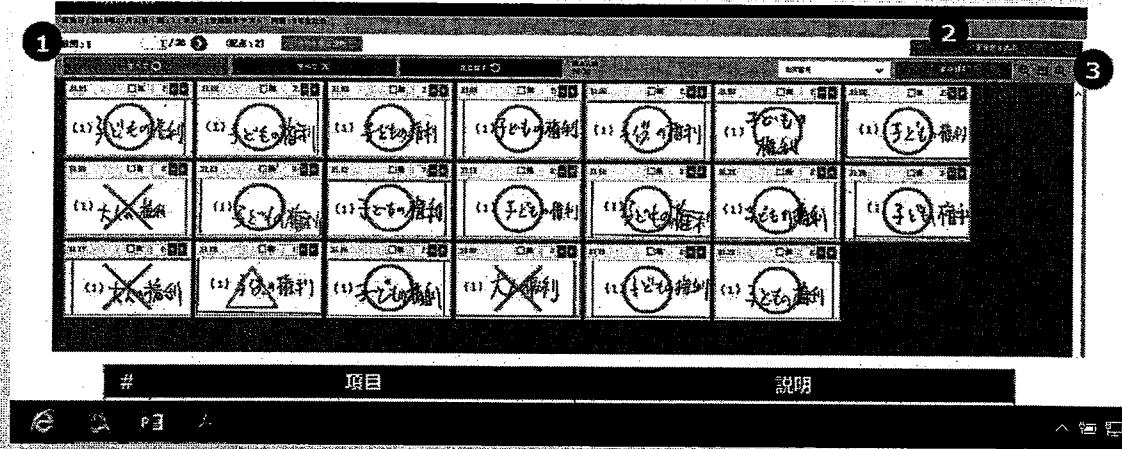
- A left window titled "2020" showing a file tree with categories like "スクショ" and "スクリプト".
- A middle window titled "teachers : 2020" showing a folder structure under "teachers" including "名簿", "会員登録", "会員登録用紙", and "名簿登録シート".
- A right window titled "合和2年度 1月行事予定" (January Events Calendar) for the year 2020, listing various events with their dates and descriptions.

### ③採点システムの導入

#### 採点システムを使った採点の流れ

- ① 模範解答をスキャナで取り込み、採点する範囲を指定する。
- ② 生徒の答案用紙をスキャナで取り込む。
- ③ コンピューター画面上に同じ設問の解答を並べて○×をつける。  
(串刺し採点)
- ④ 採点結果はコンピュータ上で観点別および合計の点数として一覧表で示される。そのデータを自校の集点表に貼り付ける。
- ⑤ データとして保存された生徒の答案用紙(採点されたもの)をプリントアウトし、生徒に返却する。

## 串刺し採点のコンピュータ画面



# 生徒に返却する答案用紙のイメージ

## 採点システムを使ってみて <良かったこと>

### 業務時間の削減

丸つけ・点数集計・点数の転記および成績ファイルへの入力の時間がかなり削減される

自動採点システムで採点した場合の時間短縮の例(1年国語3クラスの場合)

- |          |                |                 |
|----------|----------------|-----------------|
| ■模範解答の登録 | ■生徒の答案用紙アップロード | ■採点(○付け)        |
| ■採点見直し   | ■点数集計          | ■成績管理ファイル(分)の入力 |

手で採点した場合

540 120 120 90

自動採点システム

90 50 240 60 55

平均 45.5%削減  
(昨年8月利用者6人への調査)

## 採点システムを使ってみて <良かったこと>

### 採点ミスが減る

串刺し採点のため、同じ答えが並び、○つけのミスが少なくなる。  
必要な場面で自由に拡大して確認することができる。  
正答のみ・誤答のみをそれぞれソートして確認することができる。

### 答案用紙返却の際の不正防止につながる

PDFやJPEGのデータとして残るため、返却の際に書き直すなどの不正の防止になる

## 採点システムを使ってみて <良かったこと>

### 分担して採点できる

クラスごとの採点ではなく、全クラス同時に採点できるので、複数人で問題ごとに分担して採点することができる

同じ人が同じ問題を全員分採点することが可能となり、細かい採点基準を合わせるための打ち合わせに時間をかける必要がなくなる。

### 学習状況の分析ができる

設問に対してどのくらいの割合の生徒が正答しているか一目でわかるため、どの設問で多くの生徒がつまずいているのかがわかり、授業改善につなげることができる。

## 採点システムを使ってみて <課題となったこと>

・コンピュータに不慣れな教員にとっては、慣れるまでに時間がかかる。

### 定着するまでには研修等の時間が必要

・システムダウン等のトラブルがあった時の対応

・○×△の大きさの設定変更・国語など縦書き教科への使いにくさの解消など

### システムの細かい改善が必要

## 今後の見通し

現在 国語科・社会科・数学科・理科・美術科に導入

次も利用したいと  
答えた人 100%

校内体制として全員で利用する方向を模索する

## 今後の採点システム活用イメージ

